ニコニコ箱

講話を聞いていただいて。（山内鴻之祐）
先日、櫻田会員にマッサージをしてもらいました。正にゴッドハンド！体のゆがみが一発で治りました。皆さまもぜひお試しを。（浅井正勝）
ポールハリスフェローいただきました。ありがとうございました。（角谷恒彦）
来週６月25日に駅前にあるリラクゼーションサロンTORIKOが拡大移転いたします。福井駅前に活気が出るよう頑張ります。（櫻田貴美子）
山内会長、一年間ロータリー人作り奉仕に感謝。（清水慶造）
みんなが集まる場。ワクワクする場。感動を与えてくれる場の例会であってほしい。（須賀原和広）
山内会長、講話ありがとうございます。（瀬越智和）
山内会長、講話ありがとうございます。いつも勉強させていただいております。（長谷川智洋）
あわててバッジを忘れてしまいました。今後気をつけます。（柳町剛弘）
山内会長、心配した冷水かぶりも中段することなく一年間頑張られました。おめでとうございます。（吉田清二）
【誕生日御祝】初瀬川達郎
誕生日御祝 / ６月８日満91歳になりました。例会に出席していていつの間にか。（宮﨑茂和）
【結婚記念日御祝】初瀬川達郎
結婚記念日御祝 / 今年も無事に。（三浦博樹）

各　君

幹事報告

幹事　浅井　正勝

① 次週例会のご案内です。
(1) 次週の例会で、当クラブの定款・細則・内規の改正の可否について会員投票を行います。改正案は６月２日（木）に公表しておりますので、今一度ご確認下さい。質問・ご意見等ありましたら事前に事務局までお願い致します。

(2) 次週の例会は12時50分までの短縮例会とし、例会終了後、直ちにクラブ協議会を行います。今年度の活動について担当理事、委員長の皆さまからご報告いただきます。クラブ協議会への出席はメークアップ対象となりますので、多くの皆さまの出席をお願いします。

米山奨学特別寄付金

活力と輝きを作り続けましょう。（山内鴻之祐）
山内会長の前向きな講話を伺い、大変な世の中になっていますが、元気が出ました。（油谷啓司）
山内会長、ご講話ありがとうございました。（木瀬雅博）
第８回目の米山功労者を目指しています。（玉木　洋）
加藤幹夫・金井伸一郎・辻恵利子・細江　究

各　君

ロータリー財団増進特別寄付金

あと２回です。お世話になりました。（山内鴻之祐）
身体を整えるためアークに通うようになり楽になりました。小森会員ありがとう。（油谷啓司）
わずかでも世の役に立ちますように。（出雲路康照）
ここまで頑張ってこられた山内会長の講話に感謝。（野村直之）
今日も元気でロータリーです。（宮﨑茂和）
本日もたくさんのご寄付ありがとうございます。（村田長隆）
清水慶造

各　君

寄付金の状況

	6月16日現在	累　計	目　標
ニコニコ箱	34,000円	2,310,000円	3,000,000円
米山奨学金	22,000円	2,341,000円	2,492,000円
ロータリー財団	14,000円	3,307,080円	3,233,600円

ありがとうございました。

New Member 紹介

辻橋 清和 会員　（2021年７月８日入会）
福井放送㈱ 常務取締役営業本部長

昨年、７月に入会させて頂きました辻橋と申します。
趣味は、ゴルフで「週イチ」ゴルファーです。安定した下半身から繰り出されるドラーバーショットは曲がらずに270ヤードといいたいところですが、飛距離を道具のせいにする残念なゴルファーです。どうぞよろしくお願いいたします。

事務所　〒910-0006 福井県福井市中央１丁目３番１号加藤ビル５階 TEL：0776-25-0633　FAX：0776-24-8622
例会場　ザ・グランユアーズフクイ３F　TEL：0776-24-3200　例会 毎週木曜日12：30～13：30
クラブ会報委員会　委員長：畑下 徳洋　副委員長：渡辺 一史　委員：白江 文夫・桑原 慎治・小野田 亮・山岸 恒一
ソングリーダー♪　：野尻 章博・木村 憲一・木瀬 雅博・谷﨑 由美子・英 貴子・田中 秀也・山野井 秀一
ホームページ　http://www.fukui-rotary.com/　E-mail info@fukui-rotary.com
創立　1950年（昭和25年）10月15日　RI承認　1950年（昭和25年）12月４日（承認　No.7647）

現在会員数 138名

ROTARY CLUB of FUKUI　福井ロータリークラブ会報
R.I. District 2650 2021-2022 Weekly Bulletin　2022年６月23日　第2544号（創刊2700号）

《2021-2022年度 R.I. テーマ》
奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

クラブテーマ：ロータリーの原点を思い出そう。
そして人生を語り合い、愛を語り合い、経済を語り合おう。

地区スローガン：活力と輝き

R.I.会長 シェカール・メータ
R.I.第2650地区ガバナー 馬場 益弘

理事				監事		役員補佐	
会長	山内鴻之祐	クラブ奉仕	清川 卓二	監事	野村 直之	副幹事	中広 久
副会長・会長エレクト	荻原 昭人	職業奉仕	長谷美左子	監事	佐々木知也	副会計	油谷 啓司
直前会長	清水 則明	社会奉仕	渡邉 義信			副会計	清水 正一
幹事	浅井 正勝	国際奉仕	長田 裕美			副会場監督	木下 勝元
会計	松田 将裕	青少年奉仕	森川 圭造			副会場監督	滝本 光男
会場監督	藤本 潤一	ロータリー財団	城戸 利枝				

６月は「ロータリー親睦活動月間」です。　－ 世界中に会員がいるロータリーならではの国際交流のチャンスです。－

本日の例会　2022年６月23日　第3495回

12時30分　開会点鐘
会長挨拶
退会挨拶（橋本典明会員）
クラブ定款・細則・内規の改正について
委員会報告・幹事報告・その他
12時50分　閉会点鐘

クラブ協議会
12時50分　開会点鐘
年間活動実績報告
14時15分　閉会点鐘

今後の予定

- 6月30日(木)
  最終夜間例会
  （福井RACと合同）
- 7月 7日(木)
  栄誉行事 / 会長方針
- 7月14日(木)
  予算報告 /
  クラブ協議会
  （貴志 英生ガバナー補佐訪問）
- 7月21日(木)
  尾賀 康祐ガバナー公式訪問

会長挨拶

2021-22年度 会長
山内 鴻之祐

今日は久しぶりの卓話をさせていただきます。35歳で入会、42歳で大クレームのために退会、55歳で復帰と忙しい一生でした。私は、出戻りロータリアンという卓話以来の二十五年振りの話なので、会員の皆様は殆ど私が何者かをご存じないと思いますのでそのお話を致します。
お手元の「材料をビジネスとして」がその原点です。これは大学を卒業して入社した東洋レーヨン株式会社の同期会でそれぞれの人生を報告して下さいと言われて作ったものです。私が生きる糧を得た仕事は眼鏡産業だったのです。眼鏡は日本の75%福井で作られている。このことを知ったことが全てのスタートだったのです。そして、今は息子にその仕事を譲って25年。人生を楽しく生きております。

仕事ほど面白いものはありません。しかし、苦しいものです。大不況を何回も経験しそれを乗り越え、多くの倒産した会社との取引で苦しみ、多くのクレームで苦しみました。しかし、それは、次々と新しい材料を考えるきっかけにもなったのです。
私がロータリークラブ大好きなのは、生きるヒントを貰える素晴らしい友人、仲間がいてくれるのです。平成不況を乗り越えて来られたのもロータリークラブのお蔭です。
ゴルフが好きになれたのもロータリークラブのはぐる会のお蔭です。30代後半の頃、日本銀行福井所長さん、電電公社の局長さん、三津井証券の社長さんと一緒に私の車で出掛けました。1974年、ニクソンショックのお蔭で売り上げ半分にまでなった時です。私はその時、1929年の魔の恐慌の勉強をしたいとゴルフの帰りに言いました。その本を貸して下さった三津井証券の社長のお蔭で、株式は上がる時は棒上げ、下がるときは、五分の一、六分の一になることを知りました。それが、平成バブルにも浮かれず、土地バブルにも浮かれず、ITバブルにも浮かれずにこれたのです。従って、私の幸せは福井ロータリークラブのお蔭だと言っても過言ではありません。
自分以外の経営者も自分と同じように皆、苦しんでいるのだと知るのです。孤独を癒し、新しい勇気を貰うのです。「社長さん、孤独を癒す、ロータリーロータリアン」なのです。ロータリアン、素晴らしい響きですね。自分を律し社会的にも恥ずかしくない人生を送る。特に格式と伝統のある我が福井ロータリークラブ会員であることは余程の運の強さと実力がないと続けられません。私は、ロータリークラブで他では得られない多くの友人を得ました。病気になっても一流の先生と遠慮なくお話が出来ます。会計、法律、健康、販売、食事。どの分野でも、その道のプロが沢山おられるのです。皆さんが、友人なのです。しかし、自分から進んで交わって行かなければ、折角のチャンスをものに出来ません。
さて、最近の私の話をしましょう。私は、最近、上から目線と言われてはっとしました。そんな見方もあるのだと知ったのです。その理由は、自分の意見を滔々と述べる悪い性癖のためだということも気付かせて頂きました。確かに歳の性もあるのでしょうが、マウントする性癖は周りの人々を不愉快にすることも知りました。何とか直したいと思います。あと二回の例会で会長職も終わりです。このロータリークラブは私自身の、そして皆様の自分を高めるための道場でもあるのです。皆様と共に、幸せを手にする努力を続けて参ります。ご清聴、ありがとうございました。

次回の例会　2022年 6月30日(木)
■ 会場：ザ・グランユアーズフクイ
■ 最終例会
（福井ローターアクトクラブと合同例会）
■ 登録受付： 18時00分
■ 開会点鐘： 18時30分
■ 開会点鐘： 20時00分

2022 年 6 月 16 日　第 3494 回

出席報告	
現在会員	138名
出席者	83名
欠席者	44名
出席免除者欠席	11名
今回例会出席率	65.4%

例会修正出席率	5 月 26 日
メークアップ	28名
欠席者	25名
修正出席率	81.6%

●メークアップ　須賀原和広(6/14 福井南)、木瀬雅博(6/17 2021-22年度+2022-23年度(合同)地区米山奨学委員会)、清水慶造(6/17 福井あじさい)、浅井正勝・森川圭造・初瀬川達郎(6/18 福井RAC)　各　君

例会報告

ロータリー財団 表彰

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー	第 5 回	清水 嗣能 会員
マルチプル・ポール・ハリス・フェロー	第 4 回	清水 慶造 会員
マルチプル・ポール・ハリス・フェロー	第 2 回	上田 祐広 会員
〃		梅井 啓介 会員
マルチプル・ポール・ハリス・フェロー	第 1 回	村中 洋祐 会員
ポール・ハリス・フェロー		角谷 恒彦 会員
〃		椿原 徹也 会員

委員会報告

規定・管理委員会　藤井 健夫 委員長

規定・管理委員会から御礼とご報告を申し上げます。前回、皆様に次週 23 日例会の時にご議決をいただく定款細則の変更案を幹事の方で整理してくださいましてお届けをしてあると思います。何卒よろしくご審議をお願いしたいと思います。

規定審議会とは、国際ロータリーの常設委員会でございまして、3 年に 1 回ずつ開催され、その改選メンバーで 3 年に 1 回ずつ定款細則の変更案修正案、それから定款細則の解釈の仕方が国によって人によって様々でございますので、これを統一する為の解釈案件を審議し、議決しているわけでございます。本日、会員の皆様の会報の中に挟んであります資料をご覧ください。

注目すべき提案というものをちょっと簡単にご説明したいと思います。

3 年ごとに開催されて、今年の 2022 年が開催年になっております。RI の規定審議会です。委員は世界中の地区から 1 名を任期 3 年、近年は敦賀 RC 刀根 荘兵衛パストガバナーです。

さる 5 月 21 日のリモート会議でアメリカから帰国されこの規定審議会に出席され、帰国したばかりの刀根委員長より報告がありました。その概要がお配りした資料です。当クラブにおきましても決議のモデル定款と細則に従って改変をしなければならないわけでありますが、現時点では、決議の翻訳仮の暫定版があるのみで、刀根委員長のお話で、早くても確定版は今年の 12 月頃になるのではないかというお話でございます。

ところが、我がクラブでは今までに何回かこの規定審議会が 3 年ごとに送られていくつかの改正点が提案されてきているわけですが、その提案にモデル提案に準じた定款細則の変更が行われてきておりませんでした。ここで一回、きちんと整理しておかないと、定款細則がどのように改正経過をたどってきたのかと言うことがわからなくなってしまいますので、来週の例会でお願いをする会員投票によって、それを補完したいと思っております。

今回の RI の規定審議会では注目すべき提案がいくつかございました。まず、ローターアクトですが、ローターアクトはもう準ではなくて、ロータリアンとほぼ同等であると、こういう関連のもとにいくつかの改正案が出てきております。ローターアクターは RI 国際ロータリー委員会の委員に就任できる、細則改正案が出ております。それからロータリー雑誌は、資源節約の観点から止めて電子配布だけにすべきであると言う提案がブラジル、アルゼンチン、スペイン等から出ておりました。これは否決されております。

それから事務総長の任期が長すぎるのではないかと言われており、今の事務総長であるジョンピーターヒューコさんはもう 11 年やっておられ、史上二番目の長期事務総長でございます。これを 10 年程度に短縮し、かつ給料も高すぎると、アメリカ、大統領の倍ぐらいもらっているので、40 万ドルまでに制限すべきだという提案がありました。これはものの見事に否決されております。

それから人頭分担金について、値上げの提案がありまして、この方はいろいろ反対する方もおられましたが、410 対 68 で可決されております。この値上げによって、事務総長に 40 万ドル、年間 40 万ドル手取り以上は払っても今後やっていけるんだと財務説明があったそうです。非常に不評であったと、刀根委員長はおっしゃっておりました。

それからクラブの出席とメークアップについてもどんどん出席義務が緩む一方で、なんとか歯止めをかけようということで、日本を中心にいくつかの提案がありましたが、全部否決されております。

事務総長の給料について示された現地のアメリカの会議の時に示されたデータというのは、アメリカ大統領よりも高く、最高裁判所の長官よりも高い。そして類似クラブであるライオンズクラブ国際協会事務総長は、ロータリークラブ事務総長の 1/3 強程度の給料しか取っていないというような資料が出ております。そして、事務総長の任期で一番長い任期の方は、チェスペリーさんという方で、30 年近くやってるんですね。ポールハリスの親友のやっぱり弁護士さんでございまして、この方は無給でやっておりました。次の人に渡そうとしましたが、無給ということが効いて誰も引き受けてはなく、大変長い任期になったという形で、その次に長いのは現在の事務総長であると、こういうデータが添付されておりましたので、ご報告申し上げます。

今年の当委員会の報告に代えさせていただきます。

山内 鴻之祐会長　講話

素材をビジネスとして

私は自分の一生を素材ビジネスに捧げて生きてきた。それによって家族を養い、自分を社会的存在に高められた。ここではその経緯を語りたいと思う。

私は、幼い頃から不器用なくせに機械いじりが好きであった。そのことがベースとなって大学は機械工学を専攻することになったのだ。勿論、理科、数学が好きで国語が苦手であったことも文化系を避けた理由であるが、これが人生の生きる糧となるのだから幼い頃の好き嫌いは大きな意味を持つことになる。

卒業後、東レに入社、これも素材は機械が作るという思いから当時人気の高かった東レに入ったのだ。ここでも結局ものを作るには機械が大切であることを学び、機械さえ出来れば何だって出来るのだということを悟って楽しい時を過ごした。

結婚後も二年は東レに在職していたが福井へ戻ることになった。二十八歳の春のことである。山内商店は義父が創立した会社であるが主に伸銅品を扱っていた。社員四人ではあったが、山内銅屋さんと言われて結構特徴のある会社であった。しかし、狭い福井の市場では若い私には辛い毎日にならざるを得なかった。あらゆる業種の顧客を訪ね何かないかと探し回っていた。そこに眼鏡産業があることを知って、福井で一番になれば日本で一番になれる。日本で一番になれば世界で一番に成れるかもしれないと考えるようになった。とにかく、他人が作った物を値切って買って少しでも高く売る。このような商売は私のような機械を学んだ私には何かと落ち着かなかった。絶えず何か見つけよう何かないかと焦っていた。そのことが大きな夢を抱かせたのかもしれない。

当時、1969 年のころは、眼鏡産業は、ドイツが一番でアメリカにもまだ元気が残っていた。そして、プラスチックフレームが主流でメタルフレームは高級イメージであり、量も少なかった。アメリカではメタルサングラスの人気が高く日本の業者も鯖江を中心に真鍮製のサングラスが大量に生産されていた。

その頃、私はあるお客様から眼鏡フレームの溝線が君のところにはないと言われた。そうか、それを作ってみようと決心した。

その頃、あるお客様が 1.1 X 1.7 ㎜の平線が欲しいと言われ、瀬戸金筵という圧延機を持っているところで作ってもらった。これが丸線で一キロ 1000 円の時、1300 円で売れる。しかもお客さんが喜んでくださる。まさに「三方良しのビジネスだ」と感じた。そこで、瀬戸さんの機械を設備しようとその機械メーカー安岡圧延機へ出向いた。何も分からなかったが兎に角買ってテストしようと 40 万円で手を打った。これが今の眼鏡フレーム用金属材料製造販売ビジネスモデルの始まりである。それから昼は営業、夜は製造の研究と昼夜を考えず研究した。何せ圧延機など使ったこともないのだから時間は掛かるし旨く行かない。溝線など 30 センチ作るのに 3 時間も掛かったが、形になっただけで感激していた。

その頃は、営業に出れば必ずこんなの出来ないか、こんなものを使っていると教えられそれに向かってライバルに価格破壊で挑戦して行った。それでも儲かるという喜びは疲れなど感じさせなかった。そのころ、揚原新十郎という鯖江では財界人、政治家がいた。彼の工場へ行くと機械をコツコツ作っていた。話を伺うとドイツから買ってきた機械を分解しコピーをしてそれより良いものを作っているのだと言う。そうすることによって、他社でまねの出来ない独創的な製品が出来るからだと言う。自社の機械で自社の技術で製造したものでなければ、他社との差別化は無理であり、同じものであれば値段は無限に下がってしまう。利益は無理と言うもの、そう教えられてなるほどと納得した。いわば、カール・シュンペーターのいう利益の根源はイノベーションであるという言葉の実施版である。事業では、差別化できないビジネスでは利益は限りなくゼロに近づく。福井の機屋さんが機械製造メーカーにその事業の根幹を委ねていたからそのビジネスの衰退を招いたように機械の基本は外部に頼ってもそのノウハウは自社のものとしなければ同じ轍を踏むことになる。そのように肝に銘じた。

私は、機械屋だ。立派な機械でなくとも物さえ出来ればよいのだ。お金も掛からず、使い勝手も自分で決められる。それが根本の経営思想となった。そこから、自社のオリジナル材料を開発入手し自社の機械で加工して売る。このビジネスモデルは遠くは東レ、近くは揚原織物工業から学んだのだ。勿論、簡単ではなかった。良いパートナー、良い協力者に恵まれなければ出来なかったと思うが、何事も真摯に取り組む姿勢は周りの人々の共感と賛同を得て何とかなるものである。

材料の開発は、住友特殊金属工業と行いスタープラチナというブランドをつけて販売した。初めは売れなかったが次第にその特徴が業界に受け入れられて大いに売れた。商売の面白さが実感できた。勿論利益も上がり、お客も喜び、福井の眼鏡産業も栄え、まさに三方良しの状態であった。その後は、東芝金属材料事業部との共同開発によって PZT プラチノイド Z を開発、これがまたまた大ヒット。難しい技術への挑戦が経営を安定化し、顧客に愛され素材ビジネスの面白さを体感することが出来た。

その後、チタンが眼鏡産業に出てきたが、私は、先の二つの材料の成功に酔い痴れていたのであろう。その開発に着手するのが遅れ難儀した。何事も長くは続かないと思わなければならないと悟った。

しかし、余りコマゴマとアイデア勝負に出ても投資効率は悪くなる。十年続く商品を求めないとならないと思っている。材料ビジネスは、根幹産業であるから、その価値とその品質評価には十分時間が掛かるものだ。やはり、早くから開発に着手しなかなか売り出さない、このような態度が必要なのではないか。

チタンは今までの銅合金、ニッケルクローム合金とは全く異質の金属であり、その取り扱いには難儀した。幸い、その先駆者である神戸製鋼所との取引から次第に技術を習得し自社開発の溝加工技術、異型加工技術を完成していった。他の業者がその商売を他の企業に委ねていた中で自社の技術を確立し得たのはやはり気の合った仲間の存在が大きい。私どものような会社でも大企業に負けない技術を手に入れることも出来るのだという固い信念が生まれた。異型の機械は、ソ連の眼鏡産業の異型線がロール加工によって作られていると知ったことが基本にある。それは機械も仕事も愛する仲間社員、湊さんや高畑さんの存在なしには考えられない。とにかく、チタンの線引き、圧延加工、直線加工、熱処理加工などクリアして行った。今は、若い世代の皆が力を合わせて一層の開発、進化に努めてくれている。

素材ビジネスの面白く楽しいことは、三つある。一つは、在庫が、不良資産にならない限り資産になり、経営の弾力性を高めることが出来るということである。インフレに強いビジネスということが出来る。例えば金合金などは日々の商いではそれ程利益は上がらないが、それ自体が貨幣であり、大きな目で見れば値上がりによって他のリスク、例えば不良品、建物の償却不足、土地の値下がりなどを補償してくれる。値下がりもあるが、十年二十年という単位でビジネスは眺めるべきであり、それが出来るのも素材ビジネスの良いところである。

二つ目は、技術の進化が極めてゆっくりとしていることである。基本は何も変わらなく、圧延、伸線、熱処理、研磨、直線加工、プレス加工などと昔と何も変わっていないのである。しかし、技術はどんどん変わっている。品質の要求もどんどん難しいレベルに変わっている。そこが新規に参入する事を難しくしている。そして、長くこのビジネスを続けているとそれなりのノウハウが蓄積され新しい技術が開発される。面白いビジネスである。

三つ目は、お客さまとの関係である。お客様にとっても素材はその商品の基礎であるから関係が深くなりやすい。新しい開発など共同で行うことが多くなり、一度関係が確立されると長く続き易い。毎日の営業活動がやり易く新規開発などもその商品力に魅力があれば容易となる。コストは、機械で生産されることから低賃金社会との競争も比較的回避できる。関税の障壁がなくなると正に生産性の問題だけとなり世界的なビジネス展開が可能になる。

素材ビジネスに携わって四十年、幸せな今日を迎えている。これも義父の若き日のご苦労がベースにあると思うとそれを引き継いだ若い世代と共に感謝の気持ちで一杯になる。日本の素材産業の会社は、新日鉄、東レ、信越化学、住友金属鉱山、三菱マテリアルなど寡占的な状態で無いと生き残れなくなっているが自動車、家電、コンピュータ、ファッション、通信などを支えるためにも大いに頑張ってもらいたい。私どもの会社もそれによって恩恵を受け続けることが出来ると信じている。大学を卒業して若き日に東レ株式会社にお世話になったことが自分の人生を幸せにしてくれたのだと感謝している。